

氏名	山本 達朗 (ヤマモト タツロウ)
所属	名寄市立大学保健福祉学部栄養学科
職名	講師
研究室連絡先	電話 01654-2-4199 (2307) FAX 01654-3-3354 E-mail tyama&&nayoro.ac.jp (&&を@にして下さい)
ホームページ URL	なし

学歴	1998年3月 北里大学理学部生物科学科卒業
職歴	1998年8月 神戸大学医学部解剖学第一講座 (文部技官：行一) 2004年4月 国立大学法人神戸大学職員 医学部技術職員：一般職 (一) 2006年4月 名寄市立大学保健福祉学部栄養学科 助手 2007年4月 名寄市立大学保健福祉学部栄養学科 助教 2010年4月 名寄市立大学保健福祉学部栄養学科 講師 現在に至る
学位	2005年6月 博士 (医学/神戸大学：博ろ第1948号) 取得
免許・資格	中学校教諭一種免許状 (1998年3月取得) 高等学校教諭一種免許状 (1998年3月取得) 解剖組織技術士免許状 (2004年12月取得、登録番号第88号、日本解剖学会認定)
研究分野	神経解剖学、神経発生学
現在の研究課題	①胎生期脂質栄養の脳組織構築に与える影響について ②妊娠期の脂質栄養と母性行動発現の関係について ③遺伝子変異動物の脳構造解析
主な担当科目	解剖学 (栄養学科2年前期)、人体形態学 (看護学科1年前期)、生物学 (教養教育科目1年前期)、解剖生理学実験 (栄養学科3年前期)、生化学実験Ⅱ (栄養学科4年前期)

研究・教育業績	<p>(学術論文：最近5年間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>Yamamoto T</u>, Setsu T, Okuyama-Yamamoto A, Terashima T. Histological study in the brain of the <i>reelin/Dab1</i>-compound mutant mouse. <i>Anatomical Science International</i>, 2009; 84(3): 200-209, 2009. (査読有り)</li> <li>2. 西村直道, 濱田佳穂莉, <u>山本達朗</u>. 大腸内フローラパタンの決定づけに及ぼす離乳後の大豆タンパク質摂取の影響. <i>大豆たん白質研究</i>, 12, 94-99, 2009. (査読無し)</li> <li>3. Nishimura N, Yamamoto T, Ota T. Taurine feeding inhibits bile acid absorption from the ileum in rats fed a high cholesterol and high fat diet. <i>Advances in Experimental Medicine and Biology</i>, 643:285-291, 2009. (査読有り)</li> <li>4. 西村直道, 三田由紀, 櫻井麻衣子, <u>山本達朗</u>, 太田徹. 大豆たん白質難消化性分画による大腸内フローラの変動解析. <i>大豆たん白質研究</i>, 10, 48-54, 2007. (査読無し)</li> <li>5. Okuyama-Yamamoto A, <u>Yamamoto T</u>, Miki A, Terashima T. Expressional changes of <i>reelin</i> in the mouse olfactory bulb after chemical lesion to the olfactory epithelium. <i>Eur J Neurosci</i>, 21(9): 2586-2592, 2005. (査読有り)</li> </ol> <p>(学会発表：最近5年間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>山本達朗</u>, 長勢奈那子, 奥山-山本綾子, 西村直道. 妊娠前後の期間における食餌性脂肪酸組成は母胎の情動および母性行動に影響を与える. 第115回日本解剖学会総会 (岩手県民会館/岩手) (2010年3月30日)</li> <li>2. <u>Yamamoto T</u>, Nishimura N, Role of n-3 PUFAs in the brain development, 32nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Neuroscience 2009) (Nagoya Congress Center, Aichi) (September 17, 2009)</li> <li>3. <u>Yamamoto T</u>, Dekimoto H, Setsu T, Watanabe M, Hoshino M, Nabeshima Y, Terashima T, Cerebellar Afferent and Efferent System of <i>Cerebellless</i> Mutant Mouse, 第29回日</li> </ol>
---------	--

	<p>本神経科学大会（国立京都国際会館/京都）（2006年7月19日）</p> <p>4. <u>山本達朗</u>, 薛富義, 渡辺雅彦, 星野幹雄, 鍋島陽一, 寺島俊雄 セレベレスマウス小脳の神経回路網 第111回日本解剖学会総会（北里大学/神奈川）（2006年3月31日）</p> <p>5. <u>山本達朗</u>, 寺島俊雄, <i>Reln</i>と<i>Dab1</i>の二重欠損マウスの形態学的観察 第110回日本解剖学会総会（富山医科薬科大学/富山）（2005年3月31日）</p> <p>6. <u>山本達朗</u>, 小脳性運動失調を呈するリーラーとヨタリのホモまたはヘテロ動物を用いた両遺伝子欠損マウスの作製 第27回生理学技術研究会（自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター/愛知）（2005年2月17日）</p> <p>（外部獲得資金：最近5年間）</p> <p>●科学研究費</p> <p>1. 平成21-22年度科学研究費（若手研究B）神経系の成り立ちにおける胎生期脂質栄養の役割（研究代表者）</p> <p>2. 平成19-20年度科学研究費（若手研究B）脳神経系発生を中心とした母体の脂質栄養改善に関する基礎的研究（研究代表者）</p> <p>●その他</p> <p>1. 平成21年度 都市エリア産学官連携促進事業（発展型）（文部科学省），十勝エリア - 食の機能性・安全性に関する高度な技術開発とその事業化によるアグリ・バイオクラスターの形成（研究分担者）</p> <p>2. 平成19-20年度 提案公募型技術開発事業・地域資源活用型研究開発事業（経済産業省）新規乾燥技術による高機能な名産アスパラガス調製残渣粉末の開発（研究分担者）</p>
学会活動	<p>日本神経科学学会（正会員：1999年1月から）</p> <p>日本解剖学会（正会員：2000年1月から）</p> <p>日本栄養・食糧学会（正会員：2006年11月から）</p>
社会活動	なし
受賞	なし
コメント	<p>栄養学的環境因子と脳神経系の構造および機能の発達に焦点をあてて研究を進めております。また、新規の遺伝子変異動物について、神経解剖学的な研究を他大学と共同で進めております。名寄から良い研究が発信できるように日々精進していく所存です。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。</p>